

自分の声で

いがらし さちこ
五十嵐 沙千子

比較文化学類 哲学・思想専攻 准教授



歌うことⅠ.

小さいとき、歌うことが大好きでした。少し大きくなって、声が出なくなりました。歌おうと思うと喉が締まってしまうのです。どうして歌えないんだろう。どうして声が死んでしまうんだろう。…でもそれは当然のことでした。私は、うまく歌おう、人に誉めてもらおう、と思っていたからです。自分の〈外〉の、他人からの視線や評価で自分の喉を縛りながら歌えるはずがありません。何故なら、歌は喉を開くことだから。自分の中から湧き上がって思わず外へ開いていってしまうような何か、自分の喉を開いて、自分を開いて、自分を世界に溶け込ませていくような何か、だからです。

結局私は「歌がうまい」と言われることはありませんでした。「よい子ね」と言われることもありませんでしたけれど。(それにしても「よい子」と「歌がうまい」って似ていると思いませんか？両方ともちゃんと「基準」があってそれにどのくらい合致しているか、で私が測られる、自分の「値段」がつけられてしまうからです。まるで商品みたいに！)

歌うことⅡ.

去年、ある中学で哲学の授業をしました。

教室に案内してくれた生徒が、そのクラスには「札付きの不良」がいるから気をつけてね、と言うのです。教室に入ると誰がその「札付きの不良(Aくん)」なのかは一目瞭然、空気も殺気立っていました。私はAくんの真正面に座り、全員に、「みんながここにいるのはどうして？」と聞きました。戸惑いながらも生徒たちはみんな「哲学の話を聞きたいから」と、ちゃんと生徒らしい態度をとって順番に判で押したように言います。そして、Aくんの番、全面的にふて腐れながら彼は「来ないと怒られるからだよ！」と言い放ちました。「こんなとこ来たくねえ！でも朝だって起きないと親父に竹刀で殴られる。学校だって先生に「態度悪いなら柔道の試合に出さないぞ」って脅される。だからここにいるんだよ！」と言うのです。思わず私は「そんなの卑怯じゃん!!」と言いました(教室の後ろには先生方がずらりと「参観」しています)。「竹刀で殴ったり試合出さないって脅すのなんて卑怯よ！そんな大人は卑怯よ！Aくんはそんな大人になりたいの?!」と私は聞きました。「なりたくねえ！」とAくんは言います。「でもまだ俺は子供だから」と言うのです。「じゃあ、Aくんだって同じよ！」と私は言いました。「大人はAくんのことを子供扱いしてる。

でもAくん自身も自分のこと子供扱いしてるじゃん！大人と同じよ！」「じゃあどうすればいいんだよ!!」Aくんは大声を上げます。私も一歩も退がれません。「向こうは子供扱いしてきてる。それは確かよ！でも、Aくんが今みたいにそうやって反抗したりふて腐れたりしてるのって、それ、相手を<大人扱い>してるからでしょ？それ、同じことよ！向こうがいくら子供扱いしてきても、Aくんは違うやり方をとることができる！向こうがいくら子供扱いしてきても、Aくんは、向こうを<人間扱い>することができるのよ！たぶんそうしたって竹刀で殴られる、試合に出さないって脅される。こっちがいくら向こうを人間扱いしても、向こうはこっちを子供扱いしてくる！それでも、こちらは相手を人間扱いすることはできるのよ！それは、物理的にできるの！いくら殴られても。それは「できる」のよ！それは相手と関係ない、自分のとる態度なんだから！相手を人間扱いするっていうのは、たとえどんなときも、自分から逃げなければ自分でできる、自分の在り方なの！」言いながら私も泣きそうになりました。それを私はAくんに言ったのか、それとも自分自身に言ったのか、それとも誰とは分からない何かに言ったのか、おそらくその全てだったのだと思います。Aくんは黙って聞いてくれました。私はAくんに言いました。「約束してくれる？そうするって約束してくれる？」するとAくんは、コックリうなずいたのです。

自立って何なのでしょう？

それはおそらく、どんなときにも相手を「人間」扱いすること、だと私は思います。相手の立場や見た目や役割の全てを越えて。相手を〇〇扱いしたり××扱いすることを越えてその向こう側に隠れている相手にまっすぐに向かっていくことだと私は思います。そう考えると、自立するということは本当に難しいことです。世の中のほとんどの「大人」は自立していないと言わなければなりません(例えばみなさんのことを「学生扱い」する大人などは特にね！)。

それでも、私たちは、今日の前にいる相手に向き合うことができる。それは可能性として、いつでも私たちに開かれて=課されています。私たちはおそらく死ぬまでそれを課されていくのでしょうか。私たちは自分を開いていくことができる。自分の喉を開いて、自分を開いて、自分を世界に溶け込ませていくことができる。それが私たちの存在する可能性なのだと私は思うのです。